

地域に根ざし、地域とともに成長する桂台中計画(中期学校運営計画)

計画期間

平成18年12月22日～平成23年3月31日

学校教育目標

世界の一員としての自覚を持てる人
豊かな自然、まちの全ての命を大切に、愛しみ、思いやれる人
自ら豊かに表現ができ、進んで行動できる人

学校経営方針

安心、安全な学校づくりを推進します。
開かれた学校づくり、特色ある教育計画の展開をさらに進めます。
「生涯学習」社会に対応できる「生きる力」を育成します。

指導の重点

- ・ 「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校づくりを実現します。
- ・ 学校防犯体制を整備し、生徒ならびに教職員事故の起きない学校を目指します。
- ・ 学校評価活動と情報公開を積極的に行い、より良い学校づくりに役立てます。
- ・ 「魅力ある学校」「大好きな学校」という評価を受けられるように努めます。
- ・ 生徒一人ひとりが、自ら学び、自ら行動できるよう積極的に支援をします。

改善の視点

- 1 本校生徒の、円滑に人間関係を作る力が弱ってきているという実感があります。
集団で学習生活を過ごし、相互に成長刺激を与え合うという学校本来の機能を再確認し、個性を尊重しつつ、家庭では出来ない教育の展開を充実する必要があります。

取組目標

平成19年度から、教職員の対人関係スキルのトレーニング研修を行い、学級担任を中心に小集団や学級単位での対人関係トレーニングを展開していきます。
「みんなで、みんなと」をキーワードに、班活動や学級活動の機能を再認識しながら働きかけ、集団の中での個性の発揮を促していきます。
平成19年度から各学年の宿泊・旅行的行事のねらいを、生徒の主体的参加と集団行動実践の場という視点で捉え直し、20年度からの行事を改善していきます。
社会人として求められる資質の具体的項目として「マナーや礼儀、あいさつ」などについて指導し、生徒会にも呼びかけ、実践できる学校を目指します。

- 2 横浜教育推進ビジョンや「横浜版学習指導要領」の策定に伴い、求める桂中生像を確かにしながら、新たな「学校教育目標」づくりを行う必要があります。

平成19年度から「求める桂中生像」について教職員、保護者や地域の声を集めながら、絞り込んでいきます。また、横浜市が目指す義務教育の形を反映させながら、「学校教育目標」を改訂します。
平成20年度から、新たな「学校教育目標」に基づく「教育課程」を定め、生徒保護者に説明責任を果たしながら展開していきます。

- 3 学校を取り巻く地域の状況を明確に意識し、学校に対する期待を受け、連携を図ることで、さらに「地域に密着し、開かれた学校づくり」を行なうことが求められています。

平成19年度から「福祉の風土に根ざす学校づくり」を進め、校区高齢者とのふれあいをベースにした活動を全校で展開していきます。
キャリア教育の実施を隣接する保育園や福祉施設の協力を得ながら、各学年展開することに務めます。
平成19年度から小中一貫カリキュラムの策定も視野に入れながら、校区小学校との交流の場面として、保護者も含めた「公開研究授業」を年二回、実施していきます。

3 の続き	<p>平成19年度から、体育祭や文化祭に保育園、障害を持った方、高齢者とのふれあいや保護者PTAの積極的参加を求める計画づくりをし、実施していきます。</p> <p>平成20年度に創立30周年を迎えるので、19年度に準備委員会を設置します。</p> <p>その記念行事の立案・計画にPTAはもちろん地域の方にも参画、協力をお願いをしながら、連携の実を挙げ、かかわるすべての人が祝える行事を展開していきます。</p>
4 自主活動ではあるが体力や精神力、また社会性を養う場面として部活動を捉え、学校規模が縮小していく中で、指導者確保の問題も含め、計画的な部活動の設定が求められている。	<p>平成18年度に、校区小学生、在校生にアンケート調査を実施し、バスケットボール部の設置を望む声が多かったため、平成19年度には新たに設置する方向で校内体制を整備します。また、今後、入部生徒の活動が止まらないような配慮を行っていきます。</p>
5 学校評価活動を計画に沿って行っているが、その結果が公表されていないことや次年度の取組への反映等について、学校の説明責任が充分に行われていないため、保護者の学校への関心が低い等の指摘がある。	<p>平成18年度に「学校評価計画」を作成し、教職員、生徒、保護者から、行事や日常の学校運営についての自己評価を行い、その結果を可能な限り客感的に公表することに務め、課題を明確にして平成19年度計画に反映します。</p> <p>平成19年度には「まちと歩む学校づくり懇話会」を「学校評議員」制に改め、第三者による外部評価を実施して、本校の有り様を客観的に捉え、平成20年度以降の学校計画づくりに反映します。</p>

人材育成の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢構成のバランスのとれた教職員構成を目標に計画的な人事異動を展開する。 ・ 少ない人数で消極的になることなく、若手に積極的な役割分担を行い、「即実践」の中で指導・助言を行い育てていく。 ・ すべての教職員のより効果的な指導の力量形成をねらい、研究授業、行事公開等を意欲的に行い、指導等についての客観評価を求めていきます。
平成18年度の重点取組項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営の徹底的な効率化と意識改革 ～クラス数減少に伴う教職員減員に対応して。 ・ 全校で特色のある学校づくり、教育実践、研究研修に努力 ～今後の本校のあるべき姿、求められる生徒像を教職員が共有。 ・ 信頼し合い、相互に思い合う学校づくり ～生徒間、生徒教職員間、教職員保護者間の人間関係をさらに深める取組を推進する。 ・ 生徒の能力開発や伸長をめざす実践、体験の積極的な展開 ～教職員の個性や能力を大切にしながら積極的な指導を行う。 ・ 地域環境に根ざしたさまざまな活動で幅広い交流 ～教職員が率先して分担して取組、生徒の参加を促す。
これまでの取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育目標、取組の重点を見直して、より具体化した。 ・ 中期計画作成のための教職員アンケートを実施。今後の学校の方向性を4つの視点から捉え、人権・福祉の重点化、社会性の涵養の必要性等の方向を得た。 ・ PTA、地域との連携の強化に努めて、積極的な情報提供、人的な交流を行った。 ・ 緊急時の保護者への連絡体制の整備を行った。
まちとともに歩む学校づくり懇話会等の意見	<p>今後、意見を聴取し、掲載。</p>